

〈編集後記〉

時代は昭和から平成にかわり、例年にまして慌しい一年が過ぎた。ともあれ、ここに『相愛国文』第3号が出来上がり、ほっとしている次第である。

本年度の国文学科における特筆事として、中野恵海教授のご退職がある。本誌中「お送りすることば」にあるように、先生はほぼ四十年の間、本学に在職され、広きにわたって多くの業績を残された。いま、国文学科一同、先生のあとを継ぎ、さらなる努力を尽くすべく誓いをあらたにしている。

平成二年一月某日、先生は国文学科学生を前にしての最終の教壇に立たれた。芥川の初期短篇についての講義であった。終りにあたり、受講の学生から花束が渡され拍手でもってお送りした。

なお、本号をとくに退職記念号としなかったのは中野先生のご意向でもあり、又、今後も本誌へのご執筆を続けていただきたく願うからである。そのためにも『相愛国文』のいっその充実を期したい。

(鈴木)

〈執筆者一覧〉

柿谷雄三	本学国文学科教授
中野恵海	本学国文学科教授
蔭木英雄	本学人文学部日本文化学科教授
鈴木徳男	本学国文学科助教
土井順一	本学国文学科助教
坂本恵子	本学国文学研究室助手
川崎協子	本学国文学研究室助手

相愛国文 第三号

平成二年三月二十五日 印刷
平成二年三月二十日 発行

編集・発行

相愛女子短期大学国文学研究室

〒559 大阪市住之江区南港中四丁目四番一

☎〇六一六一二一五九〇〇(代)

製作

編集工房 ミトラ

〒640 和歌山市湊一―三―二十二

☎〇七三四一五一―〇六九二